

「静かなる音」
わたる日の春となり来る光すら
沁々にたのしむこと
忘れぬつ
『倭をくぐな』
釈 道空

国学院大学 令和7年4月20日(日) 定期号(毎月20日発行) 1部20円
[発行]国学院大学 [編集]総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目10-28 [電話]03(5466)0130 [FAX]03(5466)0528

祭儀 ■ 神殿鎮座記念祭 5月1日(木) 午前10時30分 神殿



国学院大学図書館のルーツは明治15(1882)年、本学の母体である「皇典講究所」の創立と共に設置された「文庫」にさかのぼる。当時はわずか約7坪、蔵書は数百部だったというが、今や渋谷とたまプラーザの二つの図書館に160万冊以上をそろえ、学生数1万人規模の文系大学に対する資料数としては、国内でも屈指の充実ぶりを誇る。

「国史・国文・国法の攻究を掲げて成立した国学院は、文学や史学を重視してきました。これらの学問は文献なしにはできません。長い歴史の中で図書館を大事にしてきた大学と言えます。今も研究への志向性が教員・学生共に高く、研究書や専門書を多くそろえているのが本学の強みです」

図書館長を務める遠藤潤・神道文化学部教授はそう話す。神道家の神龍院梵舜が戦国時代に筆写した「古事記」など歴史的価値が高い貴重資料も多く、一部は重要文化財に指定されている。大日本帝国憲法の起草に関わった明治の政治家、井上毅の旧蔵文書などは学外との共同研究にも活用されている。

そんな「知の宝庫」も中に入っただの建物に慣れてみなければただの建物に過ぎない。本学では書物にアクセスできる機会を増やす工夫を凝らしている。その一例が渋谷キャンパスの図書館にある開架書庫だ。「学生が書庫の中に入り、直接手に取ることができるとの多いことも特長です」(遠藤館長)

この春、初めて大学図書館を使う新入生に向け、知の森を探索するためのコツを遠藤館長が披露する。



4・5面に続く

令和7年度 学部・専攻科・別科入学式

心が突き動かされる学びへの挑戦



年以上未解決だった図形パズルの最適解を証明したことを紹介。難問への挑戦にはパズルに秘められた巧妙で美しいメカニズムをより深く知りたいという内的動機があったとして、「自分自身の心が突き動かされる瞬間を大事にしてほしい」と述べて新入生を激励した

II 2面に要旨掲載。

在学生の父母らで組織する若木育成会の郡司掛司会長による祝辞の後、谷口雅博・文学部長、根岸毅宏・経済学部長、菊田真司・法学部長、黒崎浩行・神道文化学部部長、太田直之・人間開発学部長、西村幸夫・観光まちづくり学部長が歓迎の言葉を贈った。各学部の学修内容や特色などを説明するとともに、大学での学びがやがて飛び込んでいく実社会の課題を解決していく力とつながっているなどとして学修の意義を語った。

国学院大学の令和7年度入学式が4月2日、ランドプリンスホテル新高輪(東京都港区)で3部に分かれて挙行された。6学部と神道学専攻科、別科神道専修の新入生26770人が新たな学びの道へ第一歩を踏み出した。

式典では針本正行学長が告辞を述べ、明治15(1882)年創設の皇典講究所を母体とし、今年で創立143年を迎える本学の歴史をたどった。建学の精神に基づく諸外国の学術文化を学びながら日本人、日本文化の独自性を認識するといった教育・研究の基本方針には、時代を超えた普遍性があると論じた。針本学長は今年3月、北陸先端科学技術大学院大学の上原隆平教授らの日米共同研究チームが、120

続いて新入生代表による宣誓が行われ、これから学ぼうとする学問分野を指すようになったきつかけや経験について語った。また、学修だけでなくサークル活動への積極的な参加を通じて新しく出会う仲間と共有する時間への期待を口々に表現した。

式典当日は朝から満開の桜の花びらをぬらすあいにくの雨となったが、新入生は晴れやかな表情でたゆまぬ精進を誓った。

み はるかすもの

さくらが満開となった渋谷警察署前から並木橋までの明治通り。すれ違う人々は皆、顔を上げ、その表情はどこか朗らかで楽しげだ。今年例年になく海外からの訪問者も多い。万人の心を引きつけ、捉えるさくらの美しさに国境はない▼渋谷キャンパス近くにある山種美術館で開催中の特別展「桜さくら SAKURA 2025」を訪れた。古くから私たちの心を魅了してきたさくらを題材にした作品に触れることは、画家の個性や感性、そして美意識を思い巡らせる楽しいひとときだ。また、作品に添えられた「画家の言葉」も、作品の理解を深めてくれる▼石田武《千鳥ヶ淵》、奥村土牛《吉野》、《醍醐》、小林古径《桜花》などの

名品を鑑賞する中で、「夜桜」という作品に添えられた千住博の「言葉」が心に残った▼「一輪の和花をみて美しいと感じるのは日本人だけではない。世界の誰もが美しいと感じる。そのような花を育てるのが日本文化ということだ。日本の美、それは世界の誰からみても美しいものだ。日本人だけにわかるものなど存在しない。日本の美を探るなかで日本人が感じてきた普遍性のなかに、今の世界が忘れてきた何かがあるかもしれない。それを示すことこそ、真のインターナショナル、真の国際貢献ではないだろうか。日本文化を通して、人類の真理に迫る―それが日本美を探る意味ではないだろうか」▼四月、新年度の学びと研究が始まった。誰しもがそれぞれの目標に向かって歩み始めるだろう。千住博の「言葉」を、国学院へのエールとして受け止めたい。もっと日本を。もっと世界へ。

令和7年度 学部・専攻科・別科入学式

大いなる希望を胸に新たなスタート



令和7年度の6学部、神道学専攻科・別科神道専修の入学式が4月2日、グランドプリンスホテル新高輪「飛天」で挙行された。全学応援団の団旗、管弦楽団と青葉雅楽会の歓迎演奏に導かれた新入生と家族で、式典会場は厳かな緊張感に包まれた。式開始前に吹奏楽部とフォイエール・コール混声合唱団による校歌指導が行われ、新入生は晴れがましい顔で口ずさんだ。

式典では針本正行学長からの告辞の後、在学生の保証人(父母ら)で組織する

若木育成会の郡司掛司会長があいさつに立ち「学生生活に慣れたら、将来どのような道に進むのか、早い段階から目標を定め、行動を起こしてほしい」と呼びかけた。続いて6学部長が歓迎の言葉を述べた。

新入生代表の宣誓では、太田圭駿さん(経営)が経済問題を客観的に理解し、考察・分析する力を養いたいと誓ったのをはじめ、那須遼司さん(観まち)、滝澤瑛星さん(史)、長岡千紗さん(神文)、町田亮介さん(法)、神山葵さん(初教)が各学部代表として清

会場周辺では家族と喜びを分かち合う新入生の姿が見られた。公認会計士と税理士志望の太田惇晴さん(経営)は「簿記の勉強に励みたい」と話した。独学で神道の勉強してきたという望月美音さん(神文)は「世界の宗教を勉強し、学びの幅を広げたい」と抱負を語った。柳町多葉さん(初教)は「子どもの心理を勉強したい」と語る傍ら、自身が好きなダンスなどサークル活動へも意欲を燃やした。

針本学長告辞(要旨)

「知」の探究を通じた自己実現を

大学は一方的に知識を伝達する場ではない。既存の「知」に挑み、今までにない「知」の獲得を目指す。人工知能の活用が日常化した。その回答が最適解かといえ難い。課題の本質を見極め、問い続ける力が今以上に求められている。

まずは与えられた課題を思考し、その後には学友と時間をかけて学び合ってほしい。意見をどう論理的に伝達し、資料をどう分析するか。既存の学問知識を疑うとは何か。さまざまな授業を通して不断に問いかけることで課題の本質が少しずつ暴かれていく。学びあうことで学友のかけがえのなさを実感し、自身の意見も深まるだろう。いかなる社会情勢にあっても人間は学び続けることで、内にある無限の可能性が立ち現れるものだ。

ともに学びの道を歩み、すべての教職員が学生の自己実現を全力で応援する。一人一人が「知」を探究し、有意義な学生生活を送り、自己実現を果たされることを期待する。

大学は一方的に知識を伝達する場ではない。既存の「知」に挑み、今までにない「知」の獲得を目指す。人工知能の活用が日常化した。その回答が最適解かといえ難い。課題の本質を見極め、問い続ける力が今以上に求められている。

まずは与えられた課題を思考し、その後には学友と時間をかけて学び合ってほしい。意見をどう論理的に伝達し、資料をどう分析するか。既存の学問知識を疑うとは何か。さまざまな授業を通して不断に問いかけることで課題の本質が少しずつ暴かれていく。学びあうことで学友のかけがえのなさを実感し、自身の意見も深まるだろう。いかなる社会情勢にあっても人間は学び続けることで、内にある無限の可能性が立ち現れるものだ。

ともに学びの道を歩み、すべての教職員が学生の自己実現を全力で応援する。一人一人が「知」を探究し、有意義な学生生活を送り、自己実現を果たされることを期待する。



大学院入学式 109人が研究者の一步踏み出す



国学院大学大学院の入学式が4月1日、渋谷キャンパス百周年記念館記念講堂で挙行された。当日は、役教職員や父母らが見守る中、109人(再入学含む)の新入生が参列し研究者としての第一歩を踏み出した。

告辞に立った針本正行学長は、「先学の研究成果に敬意を払いつつも、資料に基づき、時に抗い、自らの見解を提起すること強く求めたい。皆さんが研究する意義は何か、社会との関わりはどうか、社会との関わりはどうか、社会との関わりはどうかあるべきか、不断に自己に問いかけ、それぞれの研究分野において新たな知の構築を目指され

ることを期待する」と呼びかけた。

続いて、佐藤長門・大学院委員長は、「大学院での学修で、先行研究を批判的に継承し、換骨奪胎して、独自の見解を提示することや、目的とする資格取得にチャレンジしていくことになる。もし進むべき道を見失うことがあれば研究室や事務課のドアをたたいてほしい」と激励の言葉を贈った。

これを受け、新入生を代表して中島裕さん(博後文)は、「大学院で学問を修めることは、その知見を社会に還元することでもある。そのために過去から学び、現在を見つめ、未来を切り開く力が必要だ。そして、社会や文化の多様性を理解し、共に生きる社会のあり方を追求し、次世代へとつなげていくことが求められる。仲間とともに切磋琢磨しながら学問に取り組み、より良い社会の実現にむけ尽力することを誓う」と述べ、大学院での飛躍を誓った。

卒業奉告祭・入学奉告祭を斎行

国学院大学は、3月22日に卒業奉告祭(斎主=星野光樹神職奉斎員・神道文化学部准教授)を、4月1日に入学奉告祭(斎主=同)を国学院大学渋谷キャンパスで斎行した。

卒業奉告祭は、佐柳正三理事長、針本正行学長をはじめ、役教職員らが参列。斎主の祝詞奏上では、法人傘下各校の卒業・修了・卒園者の今後の活躍を祈念した。

入学奉告祭は、佐柳理事長、針本学長ら役教職員に加えて新入生代表も参列し、法人傘下各校の学生・生徒・園児らの勉学隆昌を祈念し玉串を神前にささげ拝礼した。

令和7年度 入学者数

4月1日現在、国学院大学の学部、大学院、専攻科、別科の入学者数は次の通り。

- ◎**大学院**◆博士前期課程◇文学研究科73人▷神道学・宗教学専攻8人▷文学専攻27人▷史学専攻38人◇法学研究科▷法律学専攻7人◇経済学研究科▷経済学専攻11人◆博士後期課程◇文学研究科17人▷神道学・宗教学専攻3人▷文学専攻8人▷史学専攻6人◇法学研究科▷法律学専攻1人◇経済学研究科▷経済学専攻0人(大学院合計109人)
 - ◎**学部**◆文学部680人▷哲学科74人▷史学科190人▷日本文学科239人▷中国文学科60人▷外国語文化学科117人◆経済学部545人▷経済学科261人▷経営学科284人◆法学部529人▷法律専攻412人▷法律専門職専攻52人▷政治専攻65人◆神道文化学部▷神道文化学科196人◆人間開発学部363人▷初等教育学科113人▷健康体育学科142人▷子ども支援学科108人◆観光まちづくり学部▷観光まちづくり学科328人(学部合計2641人)
 - ◎**専攻科**▷神道学専攻科神道学専攻22人(専攻科合計22人)
 - ◎**別科**▷神道専修Ⅰ類1人▷神道専修Ⅱ類6人(別科合計7人)
- 【総計2779人】**

神奈川県湯河原町との相互連携協定を締結

国学院大学(学長・針本正行)と神奈川県湯河原町(町長・内藤喜文)は3月28日、観光まちづくりを通じた町民生活の向上、教育・研究の推進、及び地域の発展と人材育成を推進することを目的として、基本協定を締結した。

- ◆**連携・協力事項**▷地域の活性化に関する事項▷地域社会や地域の歴史・文化の振興、発展に関する事項▷地域経済、地域産業の振興、発展に関する事項▷資源管理や環境への取り組みに関する事項▷国際交流と国際相互理解に関する事項▷人材育成に関する事項▷その他、知見等や知的財産等を活かし、連携及び協力することができる事項

国学院大学 隆昌寮(ラグビーフットボール部合宿所)竣功祭を斎行



3月17日に相模原グラウンド敷地内で国学院大学隆昌寮(ラグビーフットボール部合宿所)の竣功祭(斎主=茶志川瑞稀・皇武神社宮司)を斎行した=写真。

祭典には、佐柳正三理事長をはじめ法人・大学の役教職員と施工企業、そして同部関係者らが参列した。斎主が、建物と学生及び関係者の安全と繁栄を祈り祝詞を奏上するとともに、新寮の四方を切麻散米で祓い清めた。隆昌寮の名前は皇典研究所創立時に初代総裁・有栖川宮頼仁親王が述べた告諭に依拠し、同部の活躍を祈念して佐柳理事長が命名した。

学生証一新



令和7年度から、学生証に使用していたIC規格の変更に伴い、本学の学部・大学院などの学生証の券面デザインが一新された。デザインの変更は、平成29年度以来8年ぶり。スクールカラー(赤紫)を取り入れるなどしている。今年度の入学おおよび在学期間中に配布を行った。

学修支援システム(K-SMAPY II)がバージョンアップ



平成30(2018)年9月より稼働を開始した学修支援システム「K-SMAPY II」が、オンライン授業の普及や学修スタイルの多様化といった教育環境の変化に対応することを目的として、バージョンアップを行った。今回のバージョンアップでは、表示画面の改善により視認性が向上し、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末からのアクセスがしやすくなった。また、LMS(学習管理システム)と学生ポータル(一体化を実現し、コース学修や小テスト、課題提出、クリッカーなど、双方向授業を支援する機能が新たに追加された。これらにより一層の利便性が図られるとともに、学修効果の向上が見込まれる。

学長特別賞 2団体と4学生を表彰



令和6年度学長特別賞の表彰式が3月23日、ランドプリンスホテル新高輪(東京都港区)で...

受賞者は次の通り。(学年は3月時点) ◆団体▷陸上競技部=第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走優勝、第56回全日本大学駅伝対校選手権大会優勝▷ソフトテニス部(女子)=第44回全日本大学ソフトテニス王座決定戦優勝、第78回全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会第3位◆個人▷久保田茜(日文4)=第79回全日本学生ソフトテニス選手権大会女子ダブルス優勝▷原千晴(中文4)=同上▷廣田友梨(外文4)=「国学院大学成績優秀者奨学制度」3年連続表彰(令和5・6年度成績最優秀者、令和4年度成績優秀者)▷仲澤藍(哲4)=同上(令和4・5年度成績最優秀者、令和6年度成績優秀者)

令和6年度 卒業・修了生数が確定

令和6年度の卒業・修了生数が確定した。所属別の人数は次の通り。

◎大学院◆博士前期課程修了◇文学研究科58人▷神道学・宗教学専攻12人▷文学専攻15人▷史学専攻31人◇法学研究科▷法律学専攻7人◇経済学研究科▷経済学専攻6人◆博士後期課程修了◇文学研究科10人▷神道学・宗教学専攻1人▷文学専攻6人▷史学専攻3人◇法学研究科▷法律学専攻0人◇経済学研究科▷経済学専攻0人◆博士後期課程所定単位修得退学◇文学研究科8人▷神道学・宗教学専攻2人▷文学専攻5人▷史学専攻1人◇法学研究科▷法律学専攻0人◇経済学研究科▷経済学専攻0人(大学院合計89人)

◎学部(9月卒業含む)◆文学部766人▷哲学科77人▷史学科214人▷日本文学科280人▷中国文学科61人▷外国語文化学科134人◆経済学部517人▷経済学科261人▷経済ネットワーク学科2人▷経営学科254人◆法学部▷法律学科468人▷法律専攻390人(3年時卒業1人を含む)▷政治専攻42人◆神道文化学部▷神道文化学科192人◆人間開発学部340人▷初等教育学科109人▷健康体育学科136人▷子ども支援学科95人(学部合計2283人)

◎専攻科▷神道学専攻科神道学専攻18人(専攻科合計18人)

◎別科▷神道専修I類0人▷神道専修II類5人(別科合計5人)

[総計2395人]

院友神職会より寄付目録贈呈



卒業生神職によって組織される国学院大学院院友神職会から、研究振興などを目的として本学に寄付が贈られた。3月19日に目録贈呈式が行われ、松山文彦・同会会長(昭43修・76期神専攻、東京大神宮宮司)から、針本正行学長に目録が手渡された=写真。

学び合いの経験を糧に新しい道へ



国学院大学の令和6年度第133回卒業式が3月23日、ランドプリンスホテル新高輪「飛天」で佐柳正三理事長、針本正行学長ら役教職員と卒業生、家族が参列して行われた。学部の卒業生と神道学専攻科・別科神道専修の修了生2306人は、恩師や学友と過ごしたかけがえのない時間が詰まった学び舎を巣立った。式典は午前が経済法、人間開発の3学部、午後が文、神道文化の2学部と専攻科、別科の2部制で行われ、針本学長が各学部の総代に卒業証書・学位記を、専攻科と別科の修了生総代に修了証書を授与した。令和6年度の卒業生にとって4年前の入学式は新型コロナウイルスの渦中であり、家族の参列がかなわなかった。針本学長は式辞の中で「晴れて卒業式という式典を同じ空間で迎えることができた」と喜び、社会の変容に真摯に対応し、学びを継続してきた卒業生に敬意を表した。式辞要旨別掲。

針本学長式辞(要旨) 「知」が紡ぎ出す、未来を開く「力」

皆さんの学生生活は生成AIの進展など急速な社会変動と共にあった。AIを同伴者として歩んできた、まさに新世代の学生でもある。一方でコロナ禍という厳しい環境のもとで人と人がじかに触れ合い、学び合うことの大切さを実感したとだろう。自ら考え行動することにより、変革の激しい時代を生き抜く力も養われたはずだ。

◎清水元英(法) 努力と情熱による飛躍の4年間だった。1年次から本学のキャリアプログラム「KIPLAS」を受講した。志を共にする友人たちと切磋琢磨し、人は他者との対話を通じ、新たな視点を得て、豊かな価値観を育むのだと強く実感した。4月から国家公務員として将来を見据えた建設的な政策を実行し、倫理資本主義の発展に寄与したい。

大学院学位記授与式 針本学長「研究を通じて自己実現を願う」



令和6年度の大学院学位記授与式が3月22日、渋谷キャンパス常磐松ホールで開催され、佐柳正三理事長、針本正行学長、佐藤長門大学院委員長(文学部教授)をはじめ、役教職員と修了生、修了生の家族らが参加した。今年度は、博士後期課程(博士学位授与)71人が修了し、8人が所定単位修得退学となった。はじめに博士學位授与者10人を紹介したのち、針本学長が博士学位を授与したII写真。続いて、修了學位授与が行われ、文学研究科は佐藤委員長(兼文学研究科委員長)、法学研究科は一木孝之・同科委員長(法学部教授)、経済学研究科は細井長・同科委員長(経済学部教授)から各研究科の代表学生へ學位記を授与した。式辞に立った針本学長は「みなさんはこれまで、学修・研究の過程において研究対象と真摯に向き合い、過去の先行研究成果と格闘しながら研鑽を積んできた。これまでの実証の学びでの経験を生かし、一人一人が選んだ道で自己実現を果たすことを願っている」と今後の活躍に期待を寄せた。佐藤委員長は、「学問で得た知識や知恵をどのように使うのか、みなさんも人生の岐路に立つことがあるかもしれないが、迷ったら立ち止まり、もう一度考えてほしい。本学大学院で学んだ皆さんには、すでにその方法論が身につけている」と修了生たちを激励した。修了生を代表し、博士前期課程の佐藤友迪さん(博前文)が「新しい時代にはさまざまな困難が待ち受けているだろう。しかし、大学院での生活を通して得たかけがえのない経験は必ずや私たちの助けとなるはずだ。大学院生活で得た課題解決力を生かし、使命感を胸に、人々の幸福と社会の発展に向けてより一層の努力と躍進をここに誓う」と答辞に決意を込めた。式典の終了後、修了生らは専攻・コースごとに分かれ學位記を受け取り、恩師や友人らと思い出話に花を咲かせるなど、母校での最後のひと時を過ごした。

総代答辞

1 本学図書館を利用しよう

入館方法

図書館は本学学生・教職員、院友（卒業生）のほか、単位互換履修生、図書館コンソーシアム加盟大学の学生・教職員、地域住民（たまプラーザのみ）も利用可能。利用時は本学発行の学生証・教職員証・図書館利用証を入り口ゲートの「入館」の読み取り部にタッチするとゲートが開く。

本を探す

閲覧室などの書架に並んでいる本の背表紙を見て探す方法（ブラウジング）と、オンライン検索システム [K-aiser]（カイザー）に図書館内の端末やパソコン、スマートフォンからアクセスして検索する方法がある。本の探し方、雑誌論文の探し方はガイダンスでも案内している。



本の並び方

多くの図書館で使われている「日本十進分類法」(NDC) に従ってテーマ別に分類され、「請求記号」が割り当てられる。背表紙に貼られた3段ラベルに示された請求記号順に、書架の左上から右下へと並べられている。



2 本学図書館の所蔵を検索しよう

あらゆる蔵書を検索 K-aiser

蔵書検索システムであるOPAC（オパック：オンラインパブリックアクセスカタログ）の国学院大学での呼び名。ウェブ画面上で蔵書の簡易検索、詳細検索ができる。トップ画面のタブの切り替えにより論文検索、他の図書館も含めた横断検索、国学院大学機関リポジトリに登録された論文や資料を検索できる。



豊富なデジタル資料

大学図書館の特長の一つにデジタル資料の充実もある。国内外の論文が読める電子ジャーナルをはじめ、電子書籍（電子辞書・辞典など）も豊富にそろえていて、実物の図書・雑誌資料と併せてハイブリッドに学修・研究できる環境が整っている。



研究者らの論文を検索 機関リポジトリ「K-RAIN」

大学など学術機関の研究者らによる論文など知的生産物を電子化し、インターネットで学内外に無償で提供（オープンアクセス）するシステム。国学院大学の機関リポジトリは「K-RAIN」と呼ばれ、本学研究者の研究成果である学術論文や博士學位論文を公開している。



3 コンソーシアム、他機関を活用しよう

- ①山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム
②横浜市内大学図書館コンソーシアム
③渋谷4大学図書館連携

①JR山手線沿線の私立大学図書館と提携し、本学学生証で利用可。②横浜市内の12大学図書館、③渋谷区内の3大学とも提携し、相互利用ができる。利用方法などは大学によって異なるので事前確認が必要。

紹介状持参で利用可能 他大学の利用（コンソーシアム以外）

探している資料が見つからない場合、本学図書館発行の紹介状を持参すると、他大学の図書館を利用することができる（詳細はレファレンスカウンターまで）。国公立大学では図書館を一般開放している場合もある。ホームページで確認を。

国立国会図書館など 他機関の利用

国立国会図書館は満18歳以上なら誰でも利用できる。同館「デジタルコレクション」のうち、図書館向けデジタル化資料送信サービス（図書館送信）で閲覧可能な資料は、本学図書館の専用端末を使って閲覧・複写できる（要申請）。



4 それでも本が見つからない…そんな時は！レファレンスに相談しよう

「課題に必要な資料が見つからない」「デジタル情報の調べ方が分からない」など、図書館の使い方で困った時に頼りになるのが「レファレンス・サービス」だ。渋谷は2階にレファレンスカウンターがあり、たまプラーザはメインカウンターでサービスを受け付ける。学修の充実に向けた支援のほか、購入希望の申請や、他機関の利用に必要な紹介状の発行、他機関から文献複写物や資料を取り寄せる際の窓口でもある。積極的に活用したい。



Shibuya Campus 歴史写真館
本学の建学の精神は「本（もと）ヲ立ツル」ことを基底としている。この精神は図書館資料を利用した学びに基づいており、創設から140年余の歴史を持つ本学図書館の歩みを写真で振り返る。
大正2~3(1913~1914)年
2階にある開架書庫。地方誌の蔵書も日本屈指
昭和2(1927)年
自習する学生
各閲覧室には入門書や新しい研究書が並んでいる
TamaPlaza Campus
4階入り口周辺では企画展示で蔵書を紹介
3階には新書・文庫本がズラリと並び



本探しは自分探し

本に触れ、自分の関心を切り出していく

「大学図書館はどんなところですか？」
多くの本に触れ、本を通して世界をのぞける場所だということにまずは伝えたいですね。今は本を買うのにインターネットを使うことが多いと思いますが、ウェブでの本へのアクセスはピンポイントになりがちです。図書館ではテーマごとに本を分類し、体系化して並べているので、二冊の本を探しにやってくるだけでも、知識には時間的な幅を持った文脈があることを体感できます。散歩気分でもかまいませんので、ぜひ来てもらいたいですね。
また本好きにありがちですが、自宅に本があふれて困っている人にとって、図書館で借りた本は期限が来たら、帰ってくるので(笑)、欲しい本があったらスマホで買う前に図書館で現物を見てみることをお勧めします。
—— 学生にぜひ利用してほしいサービスは？
図書館ガイダンスを定期的に開催しています。在学生限定サービスの紹介や、膨大な蔵書から必要な本や論文を効率的に探し出したり、信頼できるデジタル情報を入力する方法を説明しながら、授業やゼミで先生が学生を引率して図書館を訪れ、使い方を教える機会もあるので、その支援も行っています。館内のレファレンスカウンターでは司書が蔵書や利用に関する質問に応じます。また、学修・研究に役立つオンラインデータベース（DB）や電子書籍を大学で契約し、学生は「Kaiser」や電子図書館から利用できます。一部のDBなどは自宅からの接続も可能です。
—— 図書館を使いこなすにはどうしたらよいですか？
私自身は大学院生の頃、先輩に図書館の使い方を教わりました。当時はカード目録が検索の主流でしたが、著者・題名による検索の他に、主題別カードを駆使する方法を伝授されました。オンライン検索が主流の現在でも図書館の使い方や検索方法にはいろいろなコツがあるので、それらも図書館から伝えていきたいと思っています。
現在、生成AIによる情報収集が一般化しつつありますが、根拠が分からないなど精度の点ではまだ不十分です。学術の世界では、根拠に基づいて正しさを相互にチェックしながら一つの論を組み立てていきます。浮説や噂に流されないためにも「その根拠は大丈夫か」と考えるセンスを大学時代に身につけてほしいと思います。
—— 先生が考える「図書館の魅力」を教えてください。
うろろ歩いて、何でも好きな本を読んでいるというところに自由を感じます。本は、やじ馬根性で読んでみて、「お前は素人だからダメだ」なんて言わない(笑)。専門書が難しすぎたら、同じ著者が書いた新書を読む手もあります。知識のいろんな入り口があり、工夫次第でステップアップできるのが図書館のいいところですね。そして、大学の中でひとりになれる時間がほしい人にもいい場所です。
何を勉強したいのかわからないと悩む人も多いかもしれません。でも、やりたいことがはっきりしないというモヤモヤは、学ぶときに実は大切なもので、自分の中に育んでおいてほしい。こちぶつかりながら自分の関心を切り出していく、本はそのための便利なツールです。まずは、図書館に来て本をさわってほしいと思います。



図書館長 遠藤 潤 (神道文化学部教授)

「先生が考える「図書館の魅力」を教えてください。」
うろろ歩いて、何でも好きな本を読んでいるというところに自由を感じます。本は、やじ馬根性で読んでみて、「お前は素人だからダメだ」なんて言わない(笑)。専門書が難しすぎたら、同じ著者が書いた新書を読む手もあります。知識のいろんな入り口があり、工夫次第でステップアップできるのが図書館のいいところですね。そして、大学の中でひとりになれる時間がほしい人にもいい場所です。
何を勉強したいのかわからないと悩む人も多いかもしれません。でも、やりたいことがはっきりしないというモヤモヤは、学ぶときに実は大切なもので、自分の中に育んでおいてほしい。こちぶつかりながら自分の関心を切り出していく、本はそのための便利なツールです。まずは、図書館に来て本をさわってほしいと思います。

貴重資料をネットで閲覧 デジタルライブラリー

Web上で図書館所蔵の貴重資料や特殊コレクションの画像を公開しているサイトがデジタルライブラリーである。貴重資料は数万点を超え、教科書や各種メディアにも引用されている。重要文化財も含めた一次資料と言われるこれら学術資産は研究の基盤であり、国学院大学をはじめ、国内外の日本文化研究を支えている。

デジタルライブラリー

貴重書 Collection

- 「源氏物語」(久我家嫁入本) 40帖「御法」
- 「足利尊氏御内書」(久我家文書) 重要文化財
- 芥川龍之介「俳諧の言葉」原稿
- 「竹取物語絵巻」武田祐吉博士旧蔵本 月の使者がかぐや姫を迎えに来る場面
- 「カンパセレス文書」フランス革命期～第一帝政期の一級史料

TamaPlaza Campus

入り口がある2号館の4階にメインカウンターと参考図書・大型本コーナー、新聞・雑誌コーナー、グループ学習エリア、就職活動に役立つ本などを配置した実用書コーナーがある。3階には研究書を中心とした一般図書、桜井文庫（万葉集研究で知られる故桜井満氏の寄贈本）のほか、児童書や絵本、紙芝居のコーナーなど学部特性や学生のニーズに応じた蔵書が書架に並び。

開館時間(授業時)
9:00~19:30(月~金曜)、
9:00~16:30(土曜)
休館日
日曜・祝日、神殿鎮座記念祭(5月1日)、大学創立記念日(11月4日)、年末・年始

旬の情報・研究成果が得られる4階雑誌コーナー

Shibuya Campus

学術メディアセンターの3フロアが図書館エリア。入り口のある2階にメインカウンターと人文系の二つの閲覧室、パソコンが使えるキャレル（個別席）、開架書庫、グループ学習室などがある。3階は社会・自然科学系などの三つの閲覧室。地下2階には学術雑誌・考古学発掘調査報告書などが利用できる地下書庫と100万冊収納可能な自動書庫がある。

集中した学びの時間を過ごせる2階キャレル席

学術メディアセンター・エントランスから図書館を見る

開館時間(授業時)
9:00~22:00(レファレンス受け付けは21:00まで)
休館日
日曜・祝日、神殿鎮座記念祭(5月1日)、大学創立記念日(11月4日)、年末・年始

院友の図書館利用について

院友(卒業生)も図書館が利用できる。館外貸し出しには身分証明書が必要で、最大5冊14日間借りられる。

図書館は マナーを守って利用しましょう

- 通話禁止
- 撮影禁止
- 禁煙
- 食事禁止
- 盗難注意
- お静かに
- ペットボトル・水筒は持ち込み可
- PC利用は指定席で

令和7年度 予算成立

事業活動収支予算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位：百万円)

	科目	予算	前年度予算	増減	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	14,572	14,769	△197
		手数料	728	767	△39
		寄付金	294	270	24
		経常費等補助金	3,268	3,219	49
		付随事業収入	171	193	△22
	事業活動支出の部	雑収入	270	385	△115
		教育活動収入計	19,303	19,603	△300
		人件費	10,450	10,521	△71
		教育研究経費	6,623	6,839	△216
		管理経費	1,573	1,542	31
教育活動支出計	18,646	18,902	△256		
教育活動収支差額	657	701	△44		
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	179	179	0
		その他の教育活動外収入	50	50	0
	事業活動支出の部	教育活動外収入計	229	229	0
		借入金等利息	8	7	1
		その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	8	7	1		
教育活動外収支差額	221	222	△1		
経常収支差額	878	923	△45		

	科目	予算	前年度予算	増減	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		雑収入	0	0	0
		その他の特別収入	44	50	△6
		特別収入計	44	50	△6
		資産処分差額	0	0	0
	事業活動支出の部	その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	0	0	0
		特別収支差額	44	50	△6
		【予備費】	294	269	25
		基本金組入前当年度収支差額	628	704	△76
基本金組入額合計*	△1,402	△1,835	433		
当年度収支差額	△774	△1,131	357		
前年度繰越収支差額	△10,886	△9,755	1,131		
基本金取崩額	0	0	0		
翌年度繰越収支差額	△11,660	△10,886	774		
(参考)					
事業活動収入計	19,576	19,883	△307		
事業活動支出計	18,948	19,179	△231		

*■第1号基本金：教育の質向上のために取得した固定資産の価格

令和7年度学校法人国学院大学予算が、3月27日の理事会・評議員会で承認、成立した。

◇事業活動収支予算
事業活動収支予算は、①教育活動②教育活動以外の経常的な活動③前記以外の活動—以上三つの諸活動に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにすることを目的としている。

令和7年度基本金組入前当年度収支差額は法人全体で6億2800万円の収入超過となる見込みです。これから基本金組入額14億200万円を差引いた翌年度繰越収支差額は1億1660万円の収入超過となる見込みです。

◇資金収支予算
資金収支予算は、会計年度中のすべての収入および支出の内容と支払資金の額を明らかにすることを目的としている。

令和7年度予算総額は294億1700万円です。

資金収支予算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位：百万円)

収入の部			
科目	予算	前年度予算	増減
学生生徒等納付金収入	14,572	14,769	△197
手数料収入	728	767	△39
寄付金収入	298	273	25
補助金収入	3,303	3,254	49
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	222	243	△21
受取利息・配当金収入	179	179	0
雑収入	270	385	△115
借入金等収入	601	501	100
前受金収入	2,719	2,702	17
その他の収入	1,974	1,765	209
資金収入調整勘定	△3,108	△3,128	20
当年度収入合計	21,757	21,710	47
前年度繰越支払資金	7,660	9,643	△1,983
収入の部合計	29,417	31,353	△1,936

支出の部			
科目	予算	前年度予算	増減
人件費支出	10,540	10,524	16
教育研究経費支出	4,874	5,045	△171
管理経費支出	1,436	1,432	4
借入金等利息支出	8	7	1
借入金等返済支出	600	643	△43
施設関係支出	1,049	1,240	△191
設備関係支出	505	484	21
資産運用支出	2,395	3,932	△1,537
その他の支出	433	582	△149
予備費	294	269	25
資金支出調整勘定	△483	△464	△19
当年度支出合計	21,651	23,694	△2,043
翌年度繰越支払資金	7,766	7,659	107
支出の部合計	29,417	31,353	△1,936

0万円です。前年度予算対比19億3600万円減となる見込みです。収入面では補助金収入が4900万円増額となる一方、支出面では教育研究経費支出が1億7100万円減額となる見込みです。

詳細は、学校法人国学院大学HPに掲載している。
(財務部経理課)

法人の主な役員人事

法人の主な役員人事は次の通り。
再任・昇格異動等

- ◎専任 内部監査室長 福山康一郎 (内部監査室課長補佐)
- ◎嘱託 内部監査室 田中裕介 (内部監査室長を解く)
- (令和7年4月1日付)
- ◎国学院幼稚園 園長 黒澤聡子 (令和7年4月1日付)

新任

- ◎専任 法人主事・法人事務局部長 安西晴美 (国学院大学総務部法務担当部長・同総務課長)
- ◎嘱託 法人主事 (法人事務局担当) 大野靖仁 法人主事 (キャリア支援担当) 藤形正俊 (令和7年4月1日付)

退任

- ◎専任 法人主事 (法人事務局担当) 大野靖仁 法人主事 (学生生活・キャリアサポート担当) 藤形正俊 嘱託 内部監査室 廣瀬清 (令和7年3月31日付)

大学の主な役職員人事

大学の主な役職員人事は次の通り。

- ◎副学長 (学長職務代理者) 石川則夫
- ◎副学長 植村勝慶 太田直之 (以上任期4年)
- ◎大学院 委員長 佐藤長門 代表幹事 吉田永弘 文学研究科 委員長 佐藤長門 幹事 吉田永弘 法学研究科 委員長 一木孝之 幹事 高橋信行 経済学研究科 委員長 細井長 幹事 細谷圭 (以上任期2年)
- ◎学部 文学部 学部長 谷口雅博 副学部長 青木敬 法学部 学部長 菊田真司 副学部長 佐藤秀勝 経済学部 学部長 根岸毅宏 副学部長 小野正人 神道文化学部 学部長 黒崎浩行 副学部長 松本久史 人間開発学部 学部長 太田直之 副学部長 結城孝治 (以上任期2年)
- ◎観光まちづくり学部 学部長 西村幸夫 (任期中) 副学部長 梅川智也 (任期中)

研究開発推進機構

機構長 笹生衛 研究開発推進センター長 松本久史 日本文化研究所長 星野靖二 学術資料センター長 内川隆志 校史・学術資産研究センター長 笹生衛 国学院大学博物館長 笹生衛 (以上任期2年)

- ◎教育開発推進機構 機構長 石川則夫 副機構長 榑剛 教育開発センター長 石川則夫 共通教育センター長 榑剛 学修支援センター長 星野光樹 教職センター長 高橋大助 (以上任期2年)
- ◎専攻科長 松本久史
- ◎別科長 加瀬直弥
- ◎学生部長 宮下雄治
- ◎教務部長 菅浩二
- ◎入学部長 高屋景一
- ◎就職部長 中根根玲子
- ◎国際交流推進部長 田原裕子
- ◎たまプラーザキャンパス長 太田直之
- ◎情報センター長 寺本貴啓
- ◎図書館長 遠藤潤
- ◎入学試験委員長 穴戸節太郎
- ◎学則委員長 高内寿夫 (以上任期2年)

昇格異動等

- ◎文学部 教授 多和田真理子
- ◎法学部 教授 安田恵美 准教授 小川亮
- ◎学術メディアセンター 事務部長 岡田安達 同担当次長 岡田秀見 (同総務部総務課長兼務)
- ◎総務部総務課長 藤盛紗暉 (人事担当部長)
- ◎総務部人事課長 小林博 同人事担当次長 小野田 同人事課長 市原基樹 (同人事課長補佐)
- ◎たまプラーザ事務部長 大矢英広 (総合企画部企画課長補佐)
- ◎総合企画部 企画課長補佐 千家慶子 (同入学課長補佐)
- ◎財務部 経理課長補佐 山口洋子 (学術メディアセンター 事務部情報システム課長補佐)
- ◎教学事務部 教育開発推進機構事務課長補佐 夢田翔 (総合企画部 企画課長補佐)

移籍・任用形態変更

- ◎観光まちづくり学部 教授 (特別専任) ジョルダン・サンド (特別招聘教授から変更、研究開発推進機構

新任 (任期延長含む)

から変更) 助手 (任期延長) 稲葉あや香 黒本剛史 劉銘 研究開発推進機構 助教 半田竜介 (特別専任から変更)

- ◎文学部 教授 立石展大 准教授 猪川由紀 赤松加寿江 植松容子
- ◎法学部 教授 山本健太郎 准教授 古賀紬子
- ◎経済学部 教授 齊藤誠 鈴木智之 教授 (特別専任) 日野雅彦 准教授 吉野真治
- ◎神道文化学部 准教授 加藤久子
- ◎人間開発学部 准教授 佐藤克士 田村昌大 萩野奈幹 助手 西山萌
- ◎観光まちづくり学部 助手 宮地俊介
- ◎研究開発推進機構 准教授 (特別専任) 武田幸也 助教 (特別専任) 藤井修平
- ◎客員教授 岩下尚史 久保田りり子 さだまさし 東儀秀樹 後藤靖子 仁志敏久 (客員教授任期1年)

退職

- ◎専任 (試用期間) 総合企画部 広報課 齋藤夢心 総合企画部 入学課 大谷彰 財務部 管財課 伊藤圭吾 教学事務部 教務課 小沼花音 教学事務部 教育開発推進機構事務課 中野未悠 学術メディアセンター 事務部 研究開発推進機構事務課 藤盛紗暉 嘱託 教学事務部 大学院事務課 川島富貴子 学生事務部 学生生活課 学生相談室 平田琉華 学術メディアセンター 事務部 研究開発推進機構事務課 (博物館学芸員) 高橋あかね (令和7年4月1日付)

自己都合

- ◎人間開発学部 助手 青柳秀幸
- ◎自己都合
- ◎専任 教学事務部 教務課 ロビン聖加
- ◎期間満了
- ◎嘱託 総合企画部 入学課 渡邊久美子 (令和7年3月31日付)

新任専任教職員紹介

今年度4月、本学に着任した専任の教職員26人のプロフィールを紹介する。
丸数字は①略歴②抱負。

文学部

◆教授
立石展大 (たていし・のぶあつ)
①国学院大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。高千穂大学教授などを経て現職。



②中国と日本の民間説話比較を中心に研究しています。文学や文化の研究をとおして、多角的な視点を獲得し、各自の価値観を確立していきましょう。ともに、学びを深めていけるよう努めます。

◆准教授
猪刈由紀 (いかり・ゆき)
①ボン大学哲学部ヨーロッパ中世近代史専攻博士課程修了(Ph.D.)。本学ほか兼任講師を経て現職。



②ドイツ語圏中近世の社会史が専門です。ドイツ語圏という遠い所のように、日本との接点は歴史的にもたくさんあります。ドイツ語圏が少しでも身近に感じられるように、授業ではその生きた魅力をお伝えできるように努めます。

赤松加寿江 (あかまつ・かずえ)
①東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。東京大学工学部建築学科特任助教、京都市芸繊維大学准教授を経て現職。



②ヨーロッパの建築史・都市史を専門に研究しています。私たちが暮らす建築、都市、地域がどのように作られてきたのかを知り、その歴史的・文化的価値に気づくことの尊さを共に学んでいきましょう。

植松容子 (うえまつ・ようこ)
①広島大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士(教育学)。昭和女子大学准教授などを経て現職。



②専門は、日本語を母語としない人に対する日本語教育です。日本語教育現場でのエピソードを盛り込みながら、一人でも多くの学生さんに日本語教育の魅力を伝えていければと思います。よろしくお願いいたします。

経済学部

◆教授
齋藤誠 (さいとう・まこと)
①マサチューセッツ工科大学経済学研究科博士課程修了。Ph.D.(経済学)。住友信託銀行、プリティッシュコロニア大学、京都大学などを経て現職。



②これまでは教育・研究に取り組む私の後姿を見て学生に「ついてこい」という姿勢でしたが、これからは学生と「一緒に学ぼう」と真摯に向き合うスタイルで取り組んでみようと思います。

鈴木智之 (すずき・ともゆき)
①東京工業大学大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻修了。博士(工学)。アクセント株式会社マネージャー、東京大学大学院情報学環特任准教授、名古屋大学大学院経済学研究科准教授などを経て現職。



②経営学的人的資源管理論に基づき、経済社会で働く人間のあり方の教育・研究に尽力致します。

◆教授(特別専任)
日野雅彦 (ひの・まさひこ)
①早稲田大学大学院法学研究科修士課程修了。修士(法学)。税務大学校などの勤務を経て現職。



②専門分野は租税法です。税は経済取引の重要な考慮要素です。ゆえに学生の段階で税の仕組みを学ぶことは肝要です。授業では、税の計算方法に終始せず、制度趣旨やホットな話題にも触れるなど、楽しく進めていきます。

◆准教授
吉野真治 (よしの・しんじ)
①早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程修了。博士(商学)。早稲田大学大学院会計研究科講師等を経て現職。



②専門は財務会計論です。公認会計士としての実務経験を踏まえ、アカデミックな議論だけでなく、実際の会計実務の問題についても、学生の皆さんと考えていきたいと思ひます。

法学部

◆教授
山本健太郎 (やまもと・けんたろう)
①東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程修了。博士(学術)。北海学園大学教授などを経て現職。



②現代日本政治を専門にしています。特に、政界再編の分析がライフワークです。政治の面白さを学生のみなさんに少しでもお伝えできればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

◆准教授
古賀絢子 (こが・あやこ)
①慶應義塾大学大学院法学研究科民事法学専攻後期博士課程単位取得退学。東京経済大学現代法学部准教授などを経て現職。



②専門は民法(家族法)です。家族の在り方が複雑多様化する昨今、家族法も変わりつつあります。家族法のこれからの姿を、学生の皆さんと一緒に考えてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

神道文化学部

◆准教授
加藤久子 (かとう・ひさこ)
①一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。東京外国語大学特任助教、大和大学教授などを経て現職。



②宗教学・社会学が専門です。時代や空間を超え、さまざまな宗教や習俗、考え方に触れることで、学生の皆さんが視野を広げ、これまでの自分を乗り越えていく手助けができればと思ひます。

人間開発学部

◆准教授
佐藤克士 (さとう・かつし)
①兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科先端課題実践開発専攻修了。博士(学校教育学)。東京都公立小学校教員、共栄大学、武蔵野大学などを経て現職。



②専門は社会科教育学(地理教育論)です。これまでのさまざまな経験を生かしながら本学の発展のために尽力していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

田村昌大 (たむら・まさひろ)
①順天堂大学大学院博士後期課程(スポーツ健康科学)修了。帝京科学大学、全日本柔道連盟強化委員などを経て現職。



②伝統ある国学院大学に入職でき、大変うれしく思ひます。スポーツおよび武道教育を通じて、本学の発展に微力ながら貢献できればと考えております。

萩野奈幹 (はぎの・なみき)
①兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科先端課題実践開発専攻修了。博士(学校教育学)。私学中等学校教員、兵庫県小学校教員、兵庫県立総合教育センター指導主事、主任指導主事を経て現職。



②専門は、道徳教育学、教育哲学、教育方法です。授業やゼミ等では、学生のみなさんと考えることを楽しみながら、学校教育や授業づくりの在り方について探究していきたいです。

◆助手
西山萌 (にしやま・もえ)
①お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程修了。博士(人文科学)。国立幼稚園T.T、区立認定こども園担任などを経て現職。



②子どもに寄り添うありようを大切に、保育実践や研究に取り組んできました。お一人お一人のもつ思いや考えに耳を傾け、寄り添える存在となれば幸いです。

観光まちづくり学部

◆助手
宮地俊介 (みやち・しゅんすけ)
①東京大学大学院学際情報学府修士課程修了。コンサルティングファーム勤務を経て現職。



②専門は社会学です。特に日本におけるコミュニティー論について、歴史・現在の二つの視点から研究しています。学生や教職員の皆さんとのつながりを大切に、有意義な学びの場を作っていけるよう努めてまいります。

研究開発推進機構

◆准教授(特別専任)
武田幸也 (たけだ・さちや)
①国学院大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(神道学)。本学助教、兼任講師などを経て現職。



②専門は近代神道史・国学。特に伊勢神宮を対象とする研究をしています。研究開発推進機構では、全学的な研究計画の立案・マネジメントや研究成果の発信に尽力したいと思います。

◆助教(特別専任)
藤井修平 (ふじい・しゅうへい)
①東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻修了。博士(文学)。専門は宗教学理論研究、宗教認知科学。



②進化生物学や心理学等の知見を取り入れた宗教研究の方法と実践について研究しています。これらの分野に限らず、宗教学と他分野をつなぐ懸け橋になればと思ひます。

大学事務局

◆学生事務部キャリアサポート課主査
田中勇也 (たなか・ゆうや)
①積水ハウス不動産東京株式会社での勤務を経て現職。



②この度母校である国学院大学に職員として戻り、働けることを大変うれしく思ひます。他業種で営業として経験したことを本学のために生かせるよう努めて参ります。何卒よろしくお願いいたします。

◆学生事務部学生生活課学生相談室(カウンセラー)
篠原侑希 (しのはら・ゆうき)
①本学嘱託職員を経て現職。臨床心理士、公認心理師。



②昨年度まで学生相談室員と

してお世話になっておりました。引き続き国学院大学に奉職できることをうれしく思っております。一日でも早く学生支援に貢献できるよう、新たな気持ちで謙虚に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

◆総合企画部広報課(試用期間)
齋藤夢心 (さいとう・ゆめみ)
①令和7年3月国学院大学文学部卒業。



②母校である国学院大学に職員として奉職できることを大変うれしく存じます。本学で学び得たことを生かしながら、社会人としての意識を持ち、一日でも早く学生支援に貢献できるよう、尽力いたします。ご指導ご鞭撻の程、よろしく願ひいたします。

◆総合企画部入学課(試用期間)
大谷彰 (おおたに・あきら)
①令和7年3月立教大学文学部卒業。



②自分の強みである「ハングリ一精神」を日々の業務の中でも大切にしていきます。多くの先哲の方々によって形作られてきた伝統ある国学院大学の一員になれることへの喜びと誇りを胸に、一日一日、一生懸命業務に取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

◆財務部管財課(試用期間)
伊藤圭吾 (いとう・けいご)
①法政大学を卒業後、川崎市消防局を退職し現職。



②歴史ある国学院大学の一員として職務に従事できることを大変光栄に思ひます。一日でも早く一人前の職員になれるよう日々精進し、主体的に行動して参ります。周囲の方々に対して感謝を忘れず全力で職務にあたります。よろしくお願いいたします。

◆教学事務部教務課(試用期間)
小沼花音 (こぬま・かのん)
①令和7年3月中央大学文学部卒業。



②伝統ある国学院大学の一員として働くことができ、うれしく思ひます。学生をはじめ関わる方一人一人の気持ちをくみ取り、寄り添った対応ができる職員になることを目標に、日々精進いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

◆教学事務部教育開発推進機構事務課(試用期間)
中野未悠 (なかの・みゆ)
①令和7年3月国学院大学人間開発学部卒業。



②母校である本学で職員として働くことができ、非常にうれしく思ひます。向上心を忘れず前向きに業務と向き合い、学生支援に貢献できるよう精いっぱい努めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

◆学術メディアセンター事務部研究開発推進機構事務課(試用期間)
藤盛紗暉 (ふじもり・さき)
①令和7年3月早稲田大学文化構想学部卒業。



②歴史ある国学院大学へ奉職できることを非常に誇りに思ひます。業務を通して関わる全ての方々とのご縁を大切にしながら、少しでも早くお役に立てるよう精進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

K:DNA — 創立143年を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

陸上競技部

EXPO 駅伝2025

総合3位・大学チームトップの活躍

大阪・関西万博開催記念ACN EXPO EKIDEN 2025が3月16日に開催され、陸上競技部が総合3位、学生チームトップの成績を収めた。本大会は昭和45（1970）年大阪万博の開催地である万博記念公園から、令和7（2025）年の開催地である夢洲までをつなぐ7区間・約55キロのコースで行われた。レースには実業団7チームと大学9チームの計16チームが出場した。

雨のなかスタートした1区では、青木瑠都選手（健体3=当時。以下同）が4位でタスキをつなぐ

と、2区の尾熊迅斗選手（健体1）は区間2位の快走でチームの勢いを加速。3区の上原琉翔選手（健体3）も区間2位の力走で総合2位に押し上げた。4区の飯國新太選手（法1）は流れを維持し、続く5区の野中恒亨選手（健体2）も区間2位の好走を見せた。6区の浅野結太選手（経営1）は上位をキープし、最終7区を任された辻原輝選手（史2）が力強い走りで見事な走りを見せ、2時間34分18秒でゴール。総合3位、学生チームとしてはトップの成績を収めた。



ゴールテープを切る辻原選手

硬式野球部

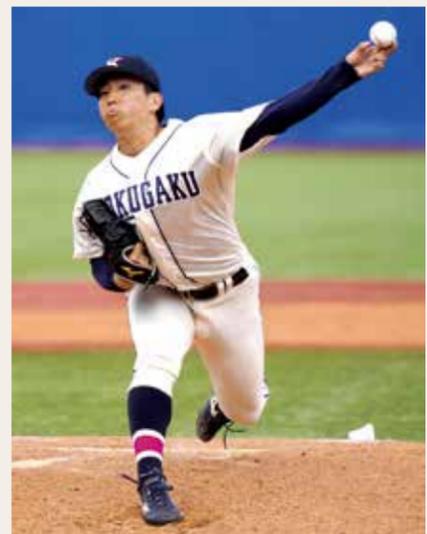
東都大学野球 春季1部リーグ開幕

東都大学野球春季1部リーグ戦が4月7日、明治神宮球場（東京都新宿区）で開幕した。国学院大学硬式野球部は初戦で日本大学と対戦し、投手戦の末、0-2で惜しくも敗れた。

本学硬式野球部は、日本大学の先発・市川祐投手の前に五回までヒット1本に抑えられる苦しい展開となった。六回表、先頭の大谷汰一外野手（経営1）がヒットで出塁すると、続く9番・菅野陽士内野手（健体4）が送りバントを決め、1死2塁のチャンスを作

るも、後続が打ち取られ得点には至らなかった。投げては、先発の當山渚投手（経営4）が五回まで被安打1、与四球1と相手打線を抑えたが、六回裏1死から連打を浴びると、相手の4番に適時打を許し、2点を先制された。この2点が決勝点となり、苦しい開幕戦となった。

次戦以降は、第2週・東洋大学戦、第3週・亜細亜大学戦、第4週・中央大学戦、第5週・青山学院大学戦を控え、巻き返しに期待がかかる。



力投を見せる當山投手

蹴球部

創部100周年記念祝賀会を開催

国学院大学蹴球部は、3月9日にアルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）で、創部100周年記念祝賀会を開催した。式典には、佐柳正三理事長をはじめ、多くの来賓の方々、蹴球部の卒業生や現役学生が一堂に会し、節目の年を祝った。式典の冒頭で、備前嘉文蹴球部部長と鞠友会（蹴球部OBOG会）の

会長である永井保之氏（昭53卒・87期文）があいさつを行い、来賓の方々による祝辞をいただいた。会の途中では、関東大学サッカー3部リーグの優勝、2部リーグへの昇格という実績を収めたチームの動画が披露された。また、白須真介・蹴球部監督からは、新チーム体制についての発表があり、未来に向

けた新たな一歩に期待が集まった。式典は、OBOGらが久しぶりの再会を喜び合い、懇親を深める場ともなった。和やかで笑顔があふれるひとときとなり、参加者全員が国学院大学蹴球部100年の歴史と輝かしい未来を感じる会となった。

インフォダイジェスト

…在学生 …保証人 …卒業生 …一般 …受験生
内容 日 日 時間 場所 対象 定員 料金 申し込み 問い合わせ

大学からのお知らせ

令和7年度学費等納付金について

令和7年度学費等納付金（前期）口座振替日は、6月20日（金）です。詳細は4月中旬に、保証人（大学院生は本人）へ送付予定の「学費等納付金に関する通知」や本学HPをご確認ください。

☎ 経理課（☎03・5466・0115）
☎ 学生生活課（☎03・5466・0145）

▶たまプラーザ事務課（☎045・904・7700）
▶大学院事務課（☎03・5466・0142）

健康診断の結果および健康診断証明書の発行について

今年度の健康診断の結果は6月下旬以降、K-SMAPY IIで確認できます。就職活動などで使用する健康診断証明書は、5月9日（金）から証明書自動発行機で発行可能です（1部400円）。

☎保健室（☎03・5466・0148）

博物館



無料

10～18時（最終入館17時30分）。祝日を除く月曜休館

※博物館関連イベントの問い合わせは ☎03・5466・0359

企画展「江戸・東京の祝祭とおしゃれ -飾る都市と人-」後援：神田神社

江戸では、山車や仮装した人々を伴う大規模な祭礼行列が行われた日枝神社や神田神社の祭礼をはじめ、地域に鎮座する神社の祭りまで、さまざまな祭りや行事が行われていました。また明治時代以降には、「大日本帝国憲法」の発布の祝祭など、特別な

日には町人もいつもと違った姿を見せます。本展示では、このような江戸・東京における飾る都市と人をテーマに、町や人が日常とは異なって華やかになったり、よそいきな姿をみせたりする様子を神田神社や本学所蔵資料を中心にみていきます。
4月26日（土）～6月22日（日）期間中ミュージアムトーク2回実施
場博物館企画展示室

イベント

30

若木育成会「支部の集い」にご出席を

本学の学部・専攻科・別科在学生（外国人留学生を除く）の父母ら（保証人）を中心に組織される若木育成会では、「支部の集い」を5月下旬から全国で順次開催します。本学の教職員が、大学の現況報告と授業の履修・成績、進路・就職等に関する説明を行います。ご心配なことがありましたら、個別にご相談を承ります。新入生の保証人の皆さまにとっては本学をお知りいただく機会となりますので、ぜひご出席ください。

☎ 本学HP＝二次元コード＝参照
開催約1カ月前に案内状をお送りしますので、若木育成会ポータルサイトからお申し込みください。
☎ 校友課（☎03・5466・0131）

